

宮城県商工会 地区中小企業景況調査報告書

平成30年1月～3月期

目 次

1. 県下産業全体の景況	2
(1) 主要景況項目のあらまし	2
(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし	3
(3) 今後の見通しについて	4
2. 県下産業別の景況	5
(1) 製造業の動向	5
(2) 建設業の動向	8
(3) 小売業の動向	11
(4) サービス業の動向	14

平成30年4月

宮城県商工会連合会

中小企業景況調査報告書

平成 30 年 1～3 月期

[調査要領]

1. 調査対象

- (1) 対象地区 宮城県内 10 商工会地区
(調査対象商工会名) 名取市商工会、大河原町商工会、みやぎ仙台商工会、くろかわ商工会、加美商工会、遠田商工会、若柳金成商工会、みやぎ北上商工会、石巻かほく商工会、本吉唐桑商工会
- (2) 対象企業数 150 企業
- (3) 回答企業数 147 企業

2. 調査対象期間

平成 30 年 1 月～3 月期を対象として、調査時点は平成 30 年 3 月 1 日とした。

3. 調査方法

- (1) 商工会の経営指導員による訪問面接調査。
- (2) 対象企業の抽出は、商工会に於いて、業種・規模等有意選定。

4. 回答企業内訳

業 種	企 業 数
製 造 業	31
建 設 業	25
小 売 業	44
サービス業	47
合 計	147

5. そ の 他

本報告書中の D I とは、ディフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目についての増加(上昇・好転)企業割合と減少(低下・悪化)企業割合の差を示すものである。

1. 県下産業全体の景況

県下商工会地区における今期(平成30年1月～3月期)の調査において、産業全体の業況D I(前年同期との比較D I、以下同じ)は、前期より△2.1ポイントの悪化で△32.2(前期△30.1)となった。産業別にみると、製造業が△19.3(前期△6.4)と△12.9ポイント悪化、建設業で△24.0(前期△8.3)と△15.7ポイント悪化、小売業で△45.5(前期△56.8)と11.3ポイント改善、サービス業では△32.6(前期△31.8)と△0.8ポイントの悪化であった。

(1) 主要景況項目のあらまし

① 売上額(完成工事額)の状況

売上額(完成工事額)D Iでは、全体として今期は前期(H29年10月～12月期)に比べて改善した。産業別にみると、製造業は△16.1(前期△3.4)で△12.7ポイントの悪化、建設業は△36.0(前期△33.4)で△2.6ポイントの悪化、小売業は△48.8(前期△61.3)と12.5ポイントの改善、サービス業では△40.4(前期△42.3)と1.9ポイントの改善であった。

② 採算の状況

採算D Iについても、全体として今期は前期に比べて若干改善した。産業別にみると製造業で△29.0(前期△25.8)と△3.2ポイント悪化、建設業で△36.0(前期△29.1)と△6.9ポイント悪化、小売業で△50.0(前期△48.9)と△1.1ポイント悪化、サービス業では△32.7(前期△42.2)と9.5ポイント改善した。

③ 設備投資の状況

新規投資の実施比率は、製造業では16.1%で前期比△9.7ポイント減少、建設業では8.0%で前期比△0.3ポイント減少、小売業では2.3%と前期比△4.5ポイント減少、サービス業では14.9%と前期比△5.1ポイント減少した。

(2) 全国・東北ブロックおよび本県景況のあらまし

① 売上額（完成工事額）

2018年（H30年）3月調査の日銀短観で、「中小企業の業況判断指数（D I）は前期(2017年12月調査)と比較して製造業が横ばいのプラス15、非製造業は1ポイント改善のプラス10だった。先行きは製造業、非製造業共に今期に比べ悪化を見込んでいる」と発表された。

宮城の今期売上額（完成工事額）D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では製造業・建設業で悪化、小売業・サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との売上額D I比較では、製造業では全国以下、東北とほぼ同程度、建設業・小売業・サービス業では全国・東北以下であった。

表－1 売上額（完成工事額）の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 5.0	△ 14.3	△ 10.1	△ 16.0	△ 3.4	△ 16.1
建 設 業	△ 6.9	△ 9.7	△ 23.5	△ 21.5	△ 33.4	△ 36.0
小 売 業	△ 39.6	△ 38.9	△ 48.7	△ 42.4	△ 61.3	△ 48.8
サービ業	△ 22.6	△ 26.6	△ 27.0	△ 36.2	△ 42.3	△ 40.4

② 採 算

宮城の今期の採算D Iは、全業種でマイナス値であった。前期との比較では、製造業・建設業・小売業で悪化、サービス業で改善となった。

今期の宮城の全国・東北との採算D I比較では、製造業・建設業・小売業で全国及び東北以下、サービス業では全国以下、東北以上であった。

表－2 採算の状況 (前年同期比・D I)

区 分 業 種	全 国		東 北		宮 城	
	前 期	今 期	前 期	今 期	前 期	今 期
製 造 業	△ 11.2	△ 16.7	△ 21.4	△ 18.0	△ 25.8	△ 29.0
建 設 業	△ 12.6	△ 14.3	△ 15.1	△ 25.7	△ 29.1	△ 36.0
小 売 業	△ 35.1	△ 36.7	△ 43.0	△ 39.8	△ 48.9	△ 50.0
サービ業	△ 27.1	△ 29.6	△ 32.8	△ 36.4	△ 42.2	△ 32.7

(3) 今後の見通しについて

① 県下産業全般の主要項目来期見通し

宮城の売上額（完成工事額）来期見通しD I（H30年4月～6月期）では、今期状況D Iとの比較で、製造業で6.5ポイントの改善、建設業で28.0ポイントの改善、小売業で7.9ポイントの改善、サービス業でも10.6ポイントの改善見通しとなった。

採算来期見通しD Iでは、今期状況D Iとの比較で、製造業で△3.3ポイントの悪化、建設業で16.0ポイントの改善、小売業で△2.3ポイントの悪化、サービス業で△0.7ポイントの若干の悪化見通しとなった。

② 全国と本県企業の来期見通し比較

今期と来期見通しとの比較において、製造業では、売上は全国・宮城で改善、採算は全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。建設業では、売上は全国で悪化、宮城で改善、採算は全国で若干の改善、宮城で改善の見通しとなった。小売業では、売上は全国・宮城で改善の見通し、採算では全国で改善、宮城で悪化の見通しとなった。サービス業では、売上では全国・宮城で改善の見通し、採算では全国で改善、宮城で若干の悪化の見通しとなった。

表－3 売上額（完成工事額）の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 14.3	△ 6.9	△ 16.1	△ 9.6
建 設 業	△ 9.7	△ 12.3	△ 36.0	△ 8.0
小 売 業	△ 38.9	△ 34.7	△ 48.8	△ 40.9
サービス業	△ 26.6	△ 18.7	△ 40.4	△ 29.8

表－4 採算の状況と見通し（前年同期比・D I）

区分 業種	全 国		宮 城	
	今期状況	来期見通し	今期状況	来期見通し
製 造 業	△ 16.7	△ 12.2	△ 29.0	△ 32.3
建 設 業	△ 14.3	△ 14.1	△ 36.0	△ 20.0
小 売 業	△ 36.7	△ 31.5	△ 50.0	△ 52.3
サービス業	△ 29.6	△ 23.9	△ 32.7	△ 33.4

2. 県下産業別の景況

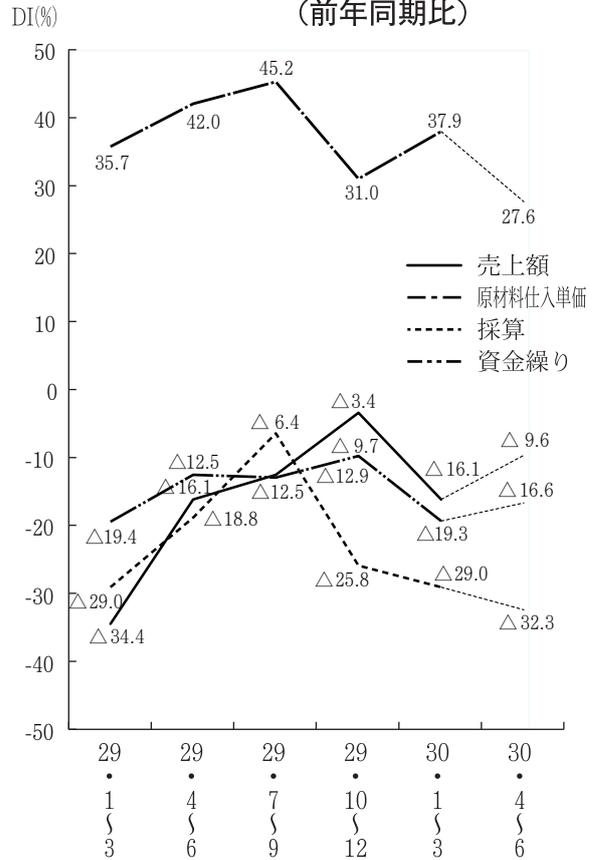
(1) 製造業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

前年同期比D Iは、売上（加工）額D Iが今期△16.1（前期△3.4）となり△12.7ポイント前期より悪化、採算D Iは今期△29.0（前期△25.8）で△3.2ポイントの悪化、資金繰りD Iも今期△19.3（前期△9.7）で△9.6ポイントの悪化となった。

原材料仕入単価は今期 37.9（前期 31.0）と6.9ポイントの上昇となった。

図1-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



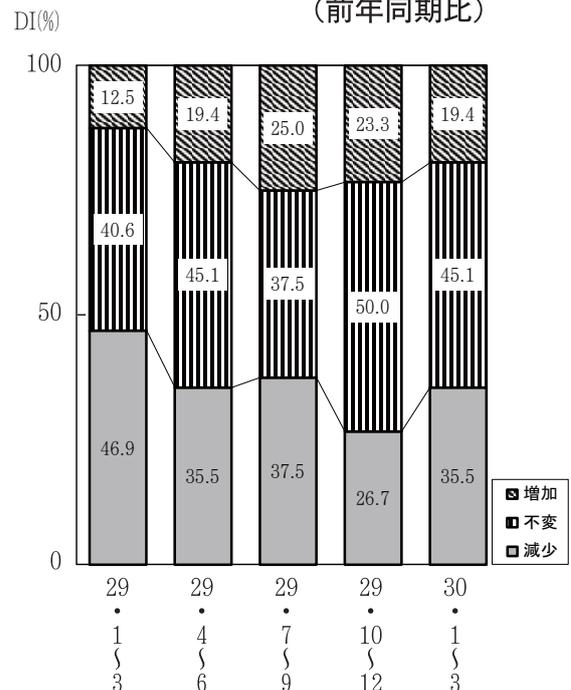
② 主要景況項目別状況

(a) 売上(加工) 額

「増加」と回答した企業は、全体の19.4%（前期23.3%）と△3.9ポイント減少し、「減少」と回答した企業は35.5%（前期26.7%）と8.8ポイント増加した。

結果として売上（加工）額D Iは△16.1（前期△3.4）となり前期比△12.7ポイント悪化した。

図1-2 売上（加工）額の状況
(前年同期比)

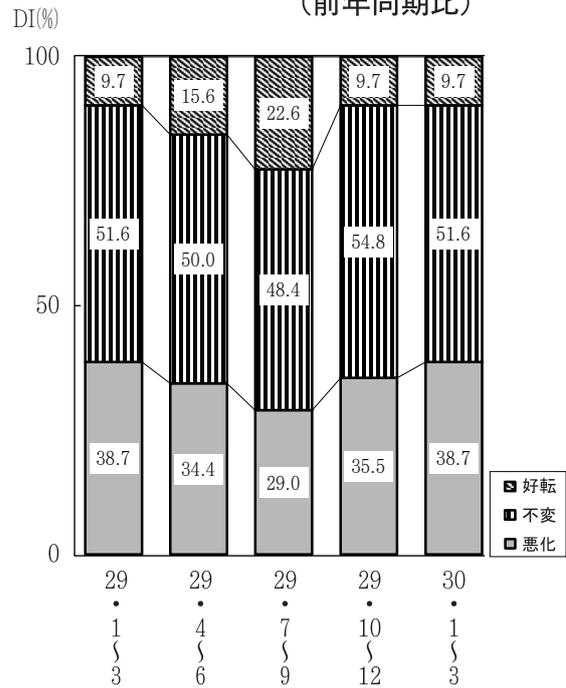


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 9.7% (前期 9.7%) で横ばい、「悪化」と回答した企業は 38.7% (前期 35.5%) で 3.2 ポイント増加した。

その結果、採算 D I は $\Delta 29.0$ (前期 $\Delta 25.8$) で前期比 $\Delta 3.2$ ポイント悪化した。

図 1 - 3 採算の状況 (前年同期比)



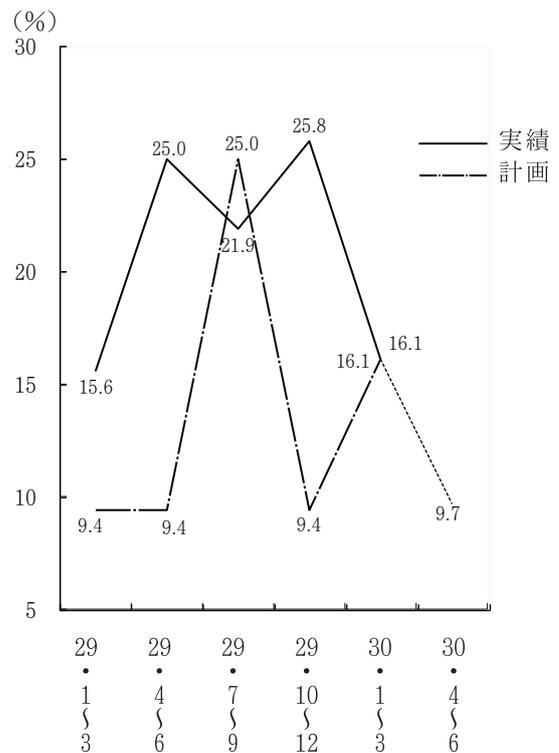
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 16.1% (前期 25.8%) で、前期と比べ $\Delta 9.7$ ポイント減少した。

その設備内容は、生産設備、OA機器であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 9.7% で、その設備内容は生産設備となっている。

図 1 - 4 設備投資の状況

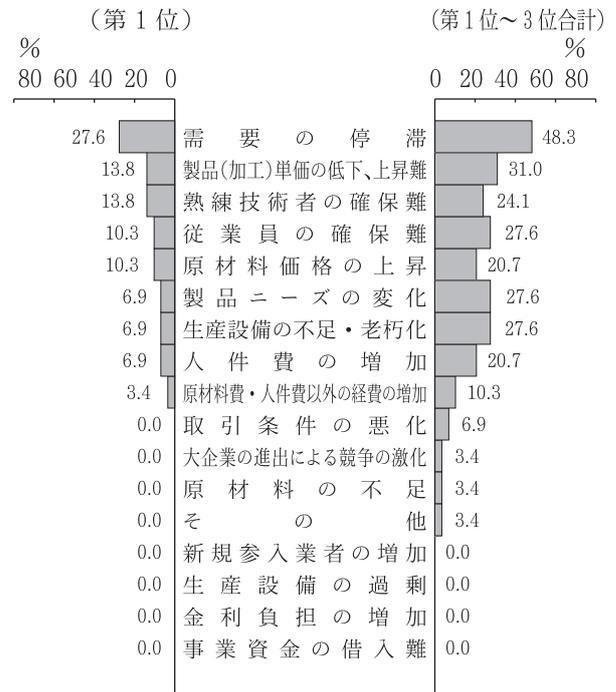


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「需要の停滞」で27.6%、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」と「熟練技術者の確保難」が同率13.8%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「需要の停滞」が48.3%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「製品（加工）単価の低下、上昇難」が31.0%、「従業員の確保難」、「製品ニーズの変化」、「生産設備の不足・老朽化」が同率27.6%で続いた。

図1-5 経営上の問題点



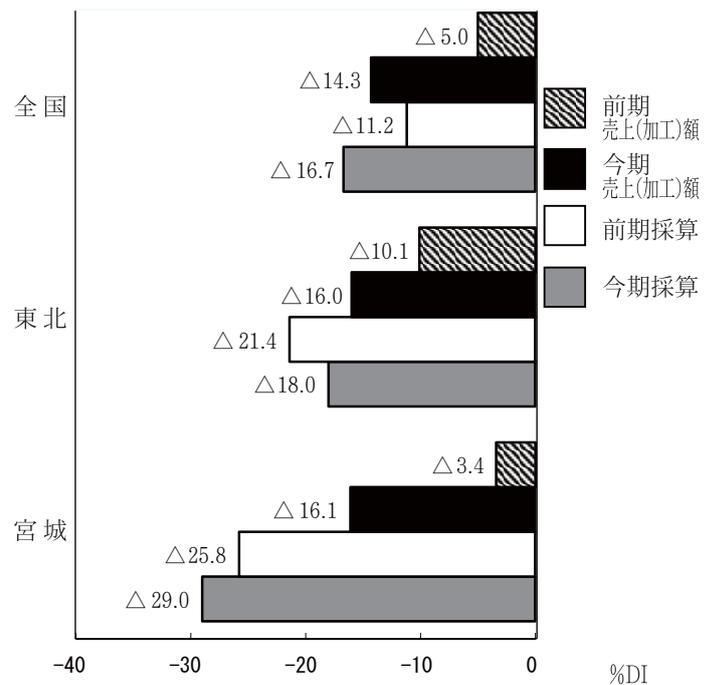
③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では売上（加工）額DIでは全区分で悪化した。その悪化度は宮城、全国、東北の順であった。

採算DIの比較では全国、宮城で悪化、東北で改善した。その悪化度は全国、宮城の順であった。

本県回答事業者からは「外食産業からの注文が減少。小売り（直売）に注力して売上挽回」（食品製造業）や、「多品種少量生産での納期が厳しくなり、技術者の対応力の向上が課題になりつつある」（金属加工業）などのコメントがあった。

図1-6 全国東北宮城売上（加工）額・採算比較（前年同期比）



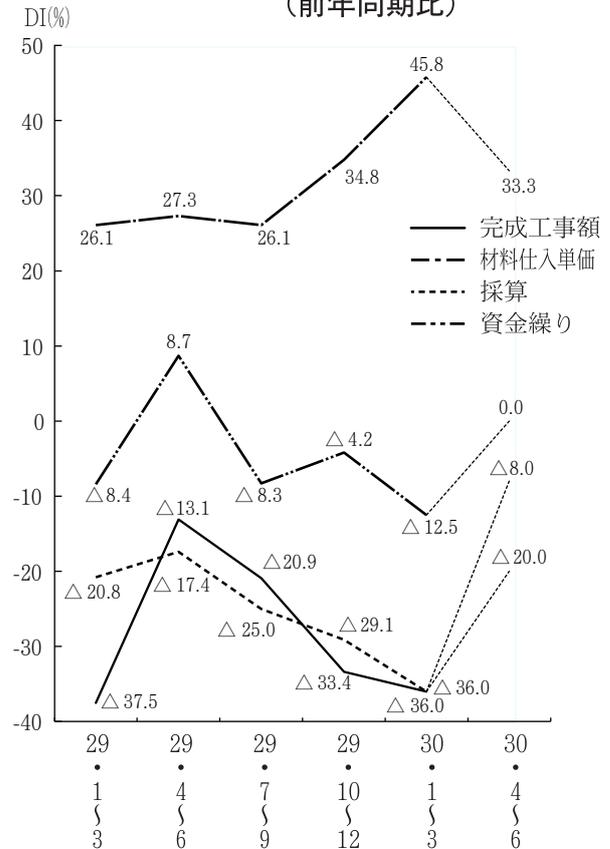
(2) 建設業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

完成工事（請負工事）額D Iは今期△36.0（前期△33.4）と前期より△2.6ポイント悪化、採算D Iは今期△36.0（前期△29.1）で△6.9ポイント悪化、資金繰りD Iも今期△12.5（前期△4.2）と△8.3ポイント悪化した。

材料仕入単価D Iは今期 45.8（前期 34.8）と前期より 11.0ポイント上昇した。

図 2 - 1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



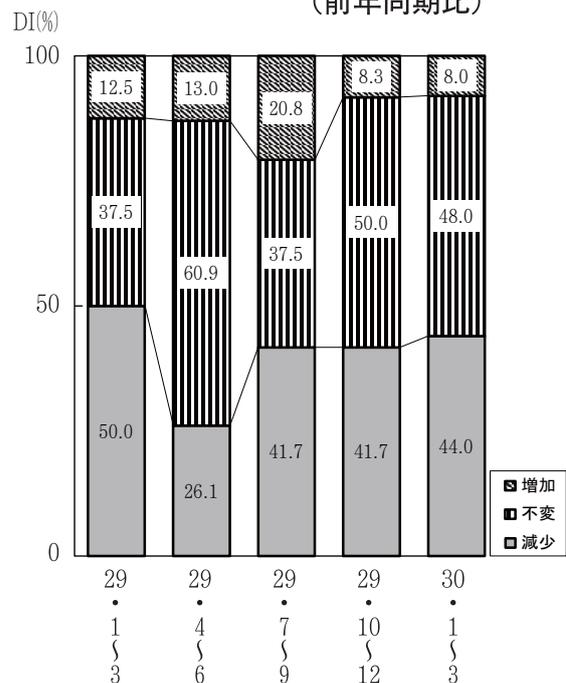
② 主要景況項目別状況

(a) 完成工事（請負工事）額

「増加」と回答した企業は全体の 8.0%（前期 8.3%）で△0.3ポイント減少、「減少」と回答した企業は 44.0%（前期 41.7%）で 2.3ポイント増加した。

その結果、完成工事（請負工事）額D Iは△36.0（前期△33.4）と△2.6ポイント前期より悪化した。

図 2 - 2 完成工事額の状況
(前年同期比)

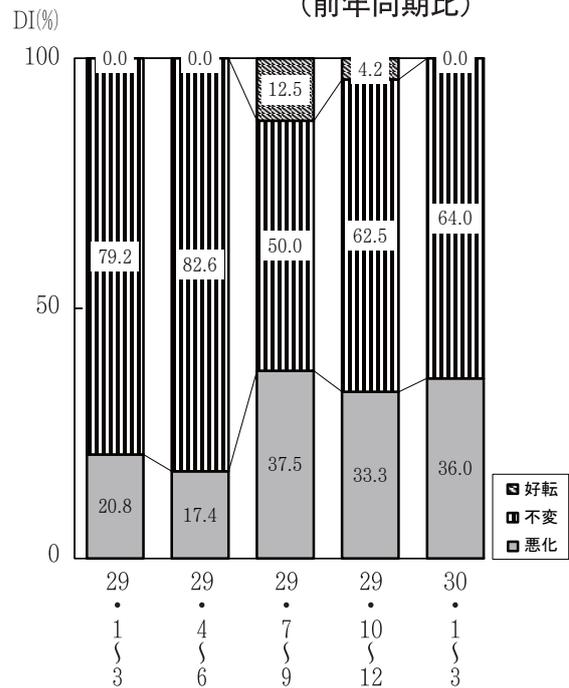


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は全体の 0.0% (前期 4.2%) で△4.2 ポイント減少、「悪化」と回答した企業は全体の 36.0% (前期 33.3%) で 2.7 ポイント増加した。

その結果、採算DIは 36.0 (前期△29.1) と△6.9 ポイント悪化した。

図 2 - 3 採算の状況 (前年同期比)



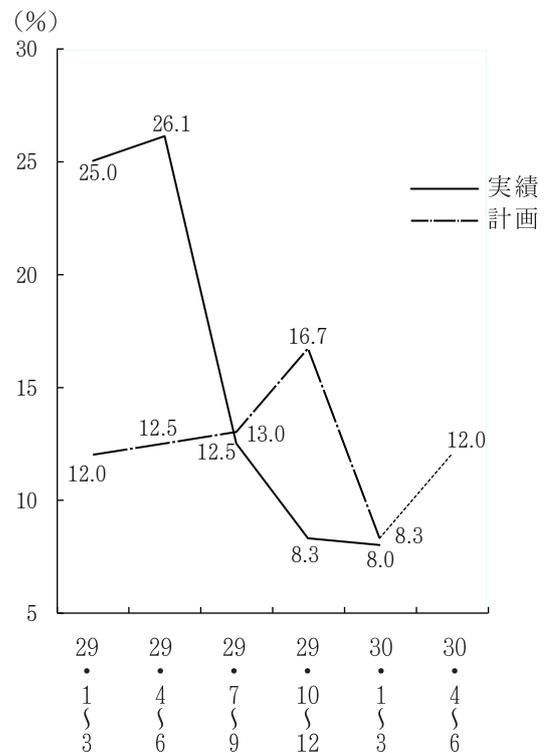
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施 (実績) 企業割合は全体の 8.0% (前期 8.3%) で、前期より△0.3 ポイント減少した。

その設備内容は、建物、建設機械であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の 12.0%で、その設備内容は、土地、建設機械、車両・運搬具、OA機器、福利厚生施設となっている。

図 2 - 4 設備投資の状況

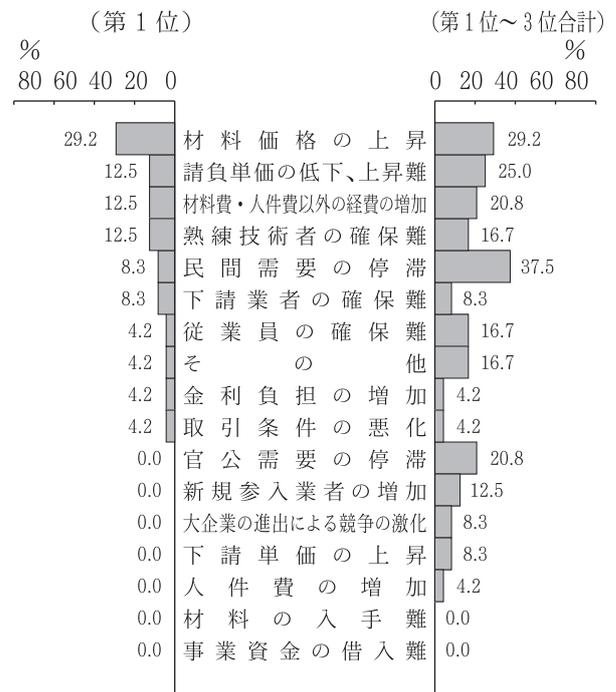


(d) 経営上の問題点

重要度第1位の問題点は「材料価格の上昇」が29.2%で、次いで「請負単価の低下、上昇難」、「材料費・人件費以外の経費の増加」、「熟練技術者の確保難」が同率12.5%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「民間需要の停滞」が37.5%（複数回答計、以下同じ）で最上位、次いで「材料価格の上昇」が29.2%、「請負単価の低下、上昇難」が25.0%で続いた。

図2-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期との比較では、売上額D Iは全国、宮城で悪化、東北で改善した。

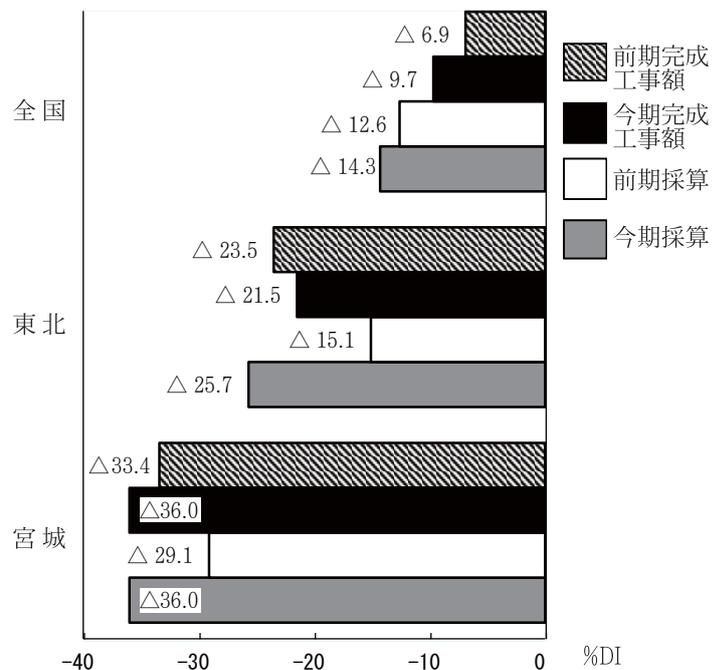
その悪化度は全国、宮城の順であった。

採算D Iの比較では、全区分で悪化した。

その悪化度は東北、宮城、全国の順であった。

本県回答事業所からは「地元石材の引き合いが活発化」や、「次期までは震災復興住宅の建築需要があるが、その後は見通しがたらず不安」などのコメントが寄せられた。

図2-6 全国東北宮城売上完成工事額・採算比較（前年同期比）



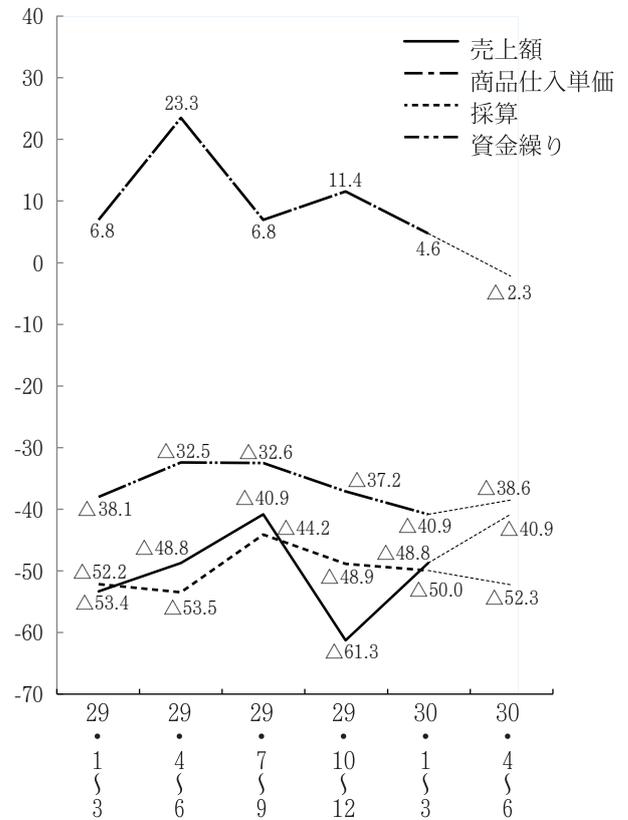
(3) 小売業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上額D Iは今期△48.8（前期△61.3）と前期に比べ12.5ポイントの改善、採算D Iは今期△50.0（前期△48.9）で△1.1ポイント悪化、資金繰りD Iでも今期△40.9（前期△37.2）で△3.7ポイント悪化した。

商品仕入単価D Iは今期4.6（前期11.4）となり、△6.8ポイント下落した。

図3-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



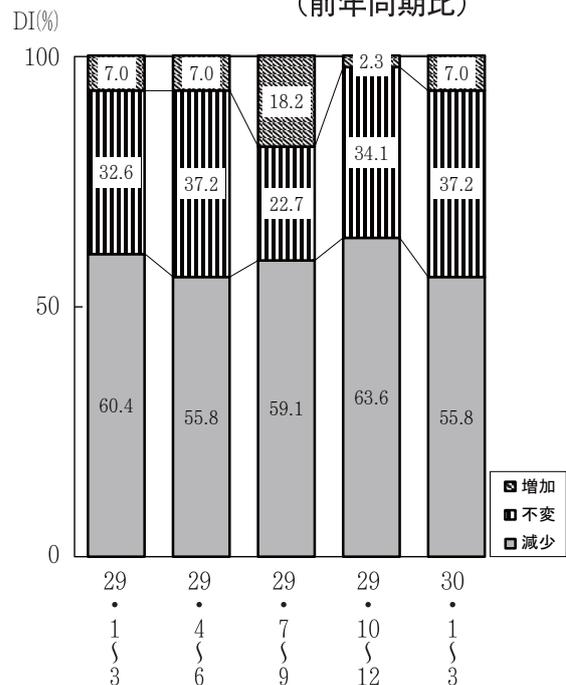
② 主要景況項目別状況

(a) 売上額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の7.0%（前期2.3%）で4.7ポイント増加、「減少」の回答は、今期は全体の55.8%（前期63.6%）で△7.8ポイント減少した。

その結果、売上額D Iは今期△48.8（前期△61.3）と12.5ポイント前期より改善した。

図3-2 売上額の状況
(前年同期比)

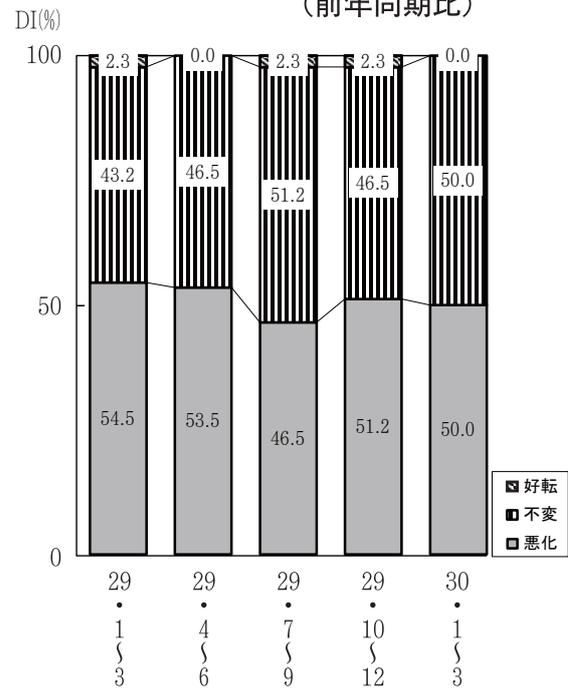


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の0.0%（前期2.3%）と△2.3ポイント減少、「悪化」の回答も今期は全体の50.0%（前期51.2%）で△1.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△50.0（前期△48.9）で、前期より△1.1ポイント悪化した。

図3-3 採算の状況
(前年同期比)



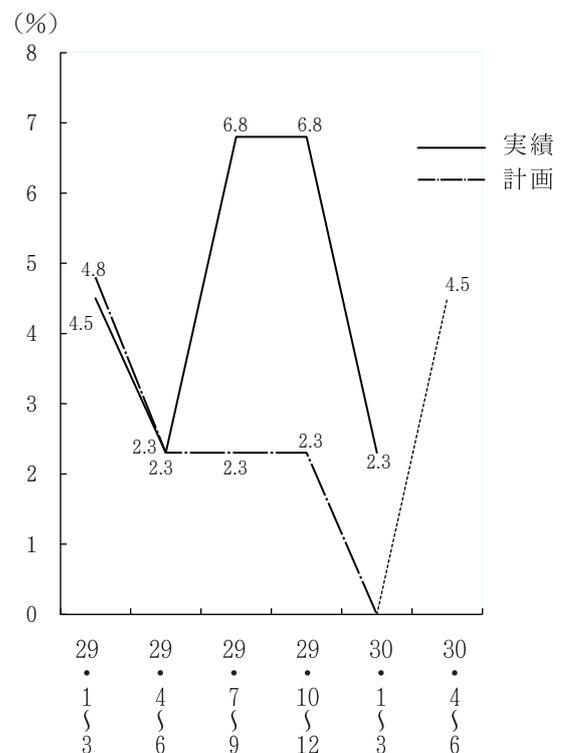
(c) 設 備 投 資

今期の新規投資実施（実績）企業割合は、今期は全体の2.3%（前期6.8%）で、前期より△4.5ポイント減少した。

その設備内容は、車両・運搬具であった。

来期に設備投資を計画している企業は全体の4.5%で、その設備内容は、店舗、付帯施設となっている。

図3-4 設備投資の状況

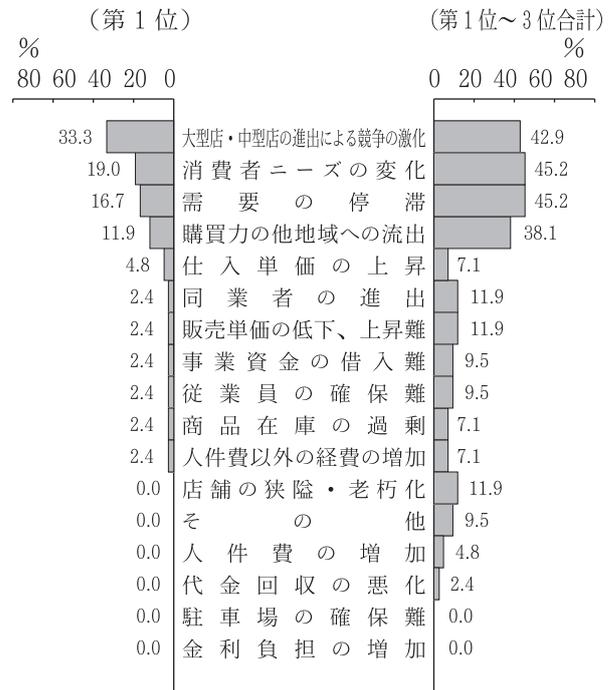


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「大型店・中型店の進出による競争の激化」で33.3%、次いで「消費者ニーズの変化」が19.0%、「需要の停滞」が16.7%で続いた。

重要度第1位から第3位合計では、「消費者ニーズの変化」と「需要の停滞」が同率最上位の45.2%(複数回答合計)で、次いで「大型店・中型店の進出による競争の激化」が42.9%で続いた。

図3-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

今期と前期の比較では、売上DIは全区分で改善した。

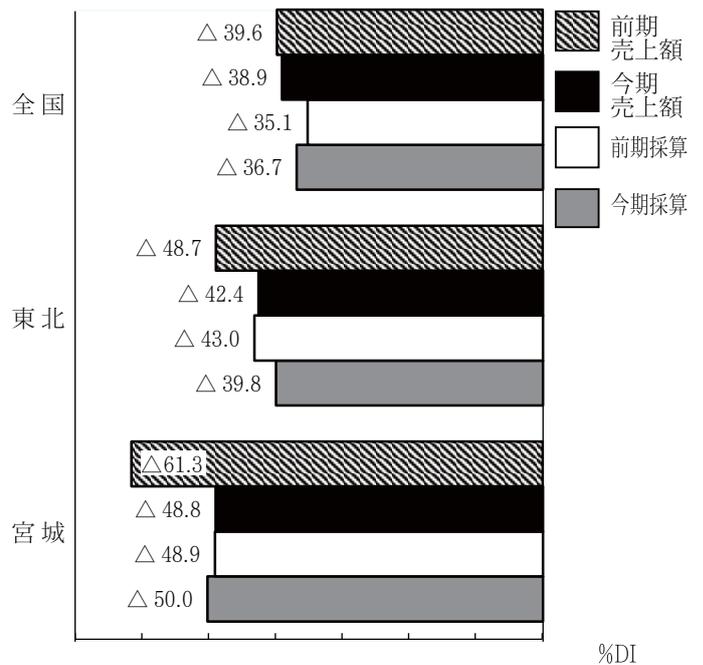
その改善度は宮城、東北、全国の順であった。

採算DIでは全国、宮城で悪化、東北で改善した。

その悪化度は全国、宮城の順であった。

本県回答事業所から「都市圏(仙台)ニーズに合った商品の企画開発への業態転換も視野に」(食品販売)や「以前からの顧客を確保して売り上げを維持」(金物販売)などのコメントが寄せられた。

図3-6 全国東北宮城売上額・採算比較(前年同期比)



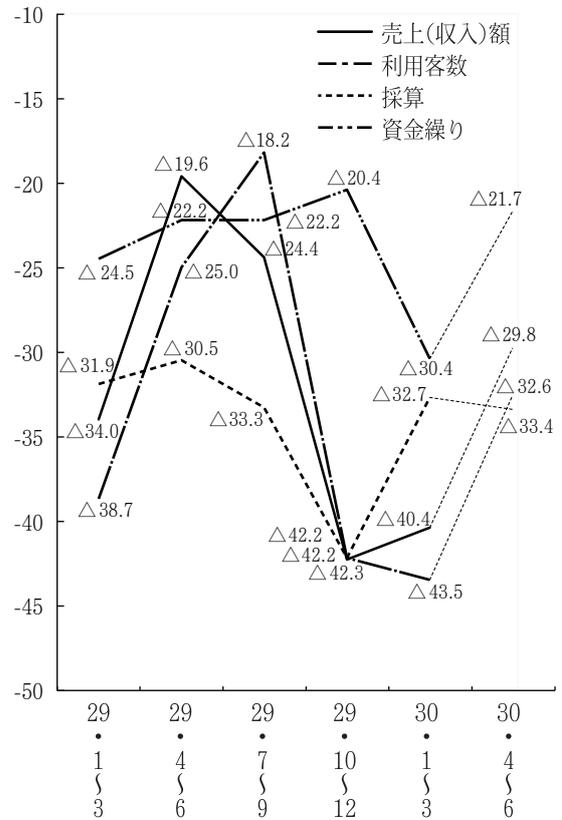
(4) サービス業の動向

① 主要景況項目から見たあらまし

売上（収入）額D Iは今期△40.4（前期△42.3）で1.9ポイント改善、採算D Iも今期△32.7（前期△42.2）で9.5ポイント改善、資金繰りD Iは今期△30.4（前期△20.4）で△10.0ポイント悪化した。

利用客数D Iは今期△43.5（前期△42.2）で△1.3ポイント下落した。

図4-1 主要景況項目の推移
(前年同期比)



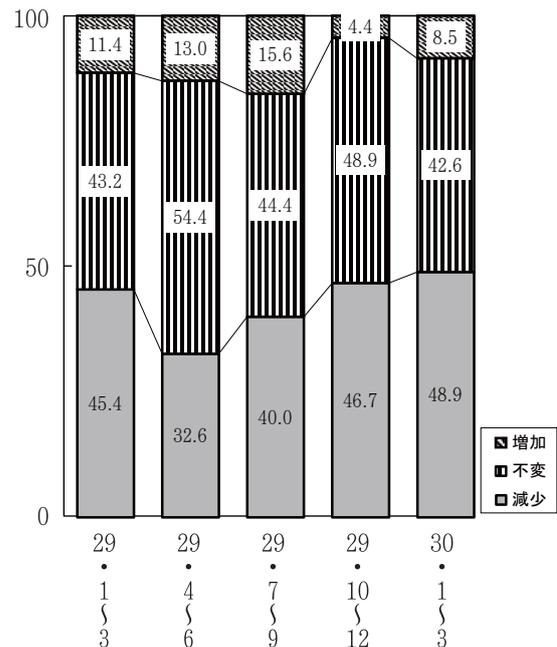
② 主要景況項目別状況

(a) 売上（収入）額

「増加」と回答した企業は、今期は全体の8.5%（前期4.4%）で4.1ポイント増加、「減少」の回答も今期48.9%（前期46.7%）で2.2ポイント増加した。

その結果、売上（収入）額D Iは今期△40.4（前期△42.3）で前期より1.9ポイント改善した。

図4-2 売上（収入）額の状況
(前年同期比)

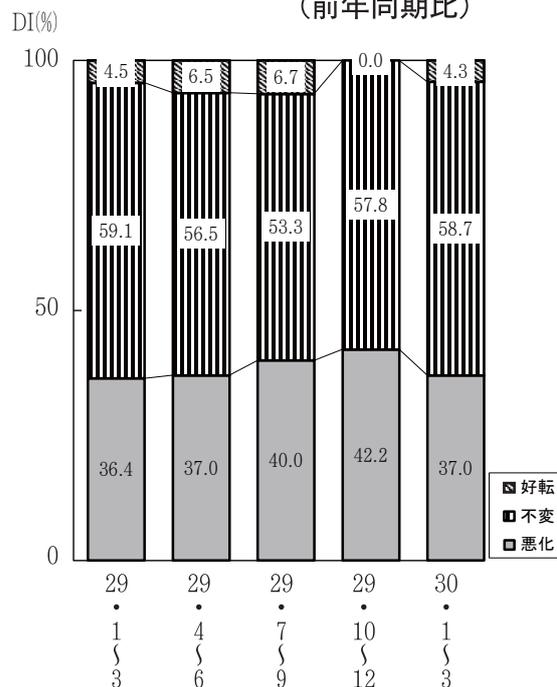


(b) 採 算

「好転」と回答した企業は、今期は全体の4.3%（前期0.0%）で4.3ポイント増加、「悪化」と回答した企業は今期37.0%（前期42.2%）と△5.2ポイント減少した。

その結果、採算DIは今期△32.7（前期△42.2）で前期より9.5ポイント改善した。

図4-3 採算の状況
(前年同期比)



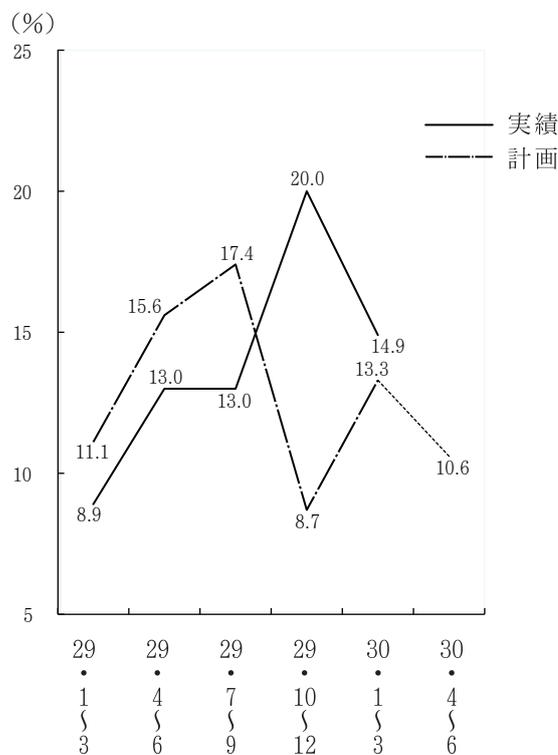
(c) 設 備 投 資

今期新規投資を実施（実績）した企業は全体の14.9%（前期20.0%）で、前期より△5.1ポイント減少した。

その設備内容は、土地、建物、サービス、車両・運搬具、付帯施設であった。

来期に設備計画している企業割合は全体の10.6%であり、その設備内容は、土地、サービス、福利厚生施設、その他となっている。

図4-4 設備投資の状況

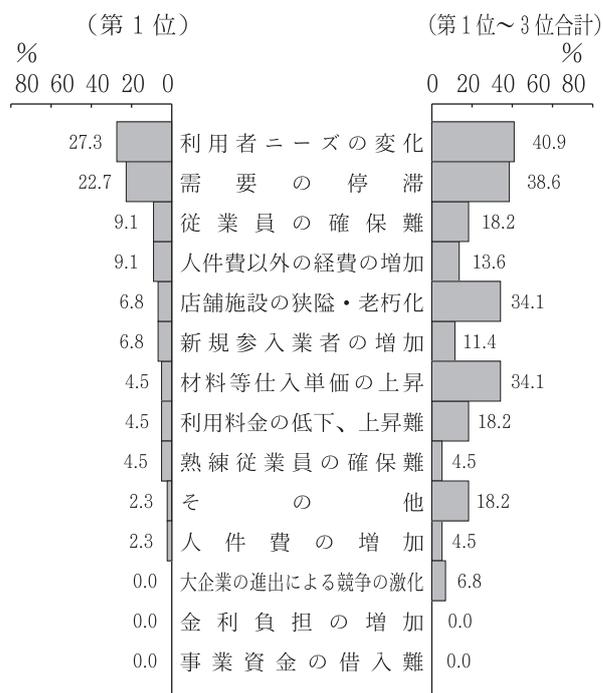


(d) 経営上の問題点

重要度第1位は「利用者ニーズの変化」で27.3%、次いで「需要の停滞」が22.7%、「従業員の確保難」、「人件費以外の経費の増加」が同率9.1%で続いた。

重要度第1位から第3位合計でも「利用者ニーズの変化」が40.9%（複数回答合計、以下同じ）で最上位、次いで「需要の停滞」が38.6%、「店舗施設の狭隘・老朽化」、「材料等仕入単価の上昇」が同率34.1%で続いた。

図4-5 経営上の問題点



③ 全国・東北ブロックと本県の景況比較

の景況比較

前期と今期の比較において、売上DIは全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

その悪化度は、東北、全国の順であった。

採算DIでも全国、東北で悪化、宮城で改善となった。

その悪化度は、東北、全国の順であった。

本県回答事業所からは「今年の降雪や寒さで特に高齢者の来店が激減。年度切り替わり時の宴会予約に期待」（飲食業）とのコメントや、「増税に伴う経費増が懸念される。利用者ニーズに対応することで客単価のアップを考慮していく」（理容業）などのコメントが寄せられた。

図4-6 全国東北宮城売上（収入）額・採算比較（前年同期比）

